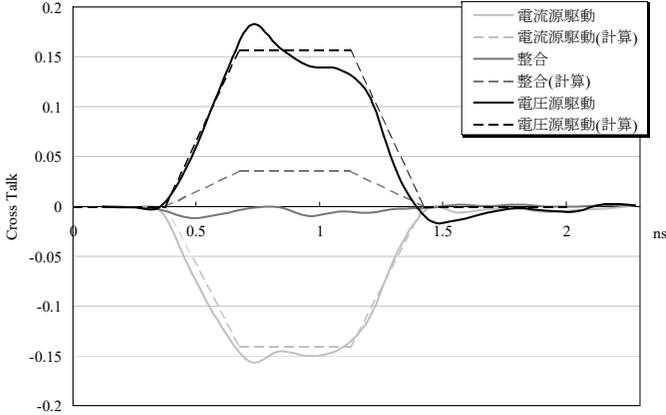
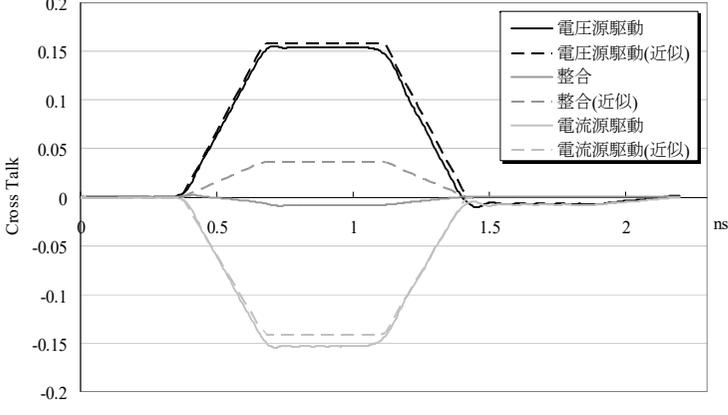


場所	誤	正	改版日
p.27 例題 2.3 終端電圧	1.5V	1.65V	2009.08.28
p.75 式(4.7) 3 番目の式削除	$v_C = \frac{v_1 + v_2}{2}, i_C = \frac{i_1 + i_2}{2}, v_C = Z_C i_C$	$v_C = \frac{v_1 + v_2}{2}, i_C = \frac{i_1 + i_2}{2}$	2009.05.01
p.75 式(4.8) 3 番目の式削除	$v_D = \frac{v_1 - v_2}{2}, i_D = \frac{i_1 - i_2}{2}, v_D = Z_D i_D$	$v_D = \frac{v_1 - v_2}{2}, i_D = \frac{i_1 - i_2}{2}$	2009.05.01
p.86 下から 10 行	線路 2 の右行波が近端で反射	線路 2 の右行波が遠端で反射	2016.09.15
p.86 最下行	v_{1R} が近端に到着	v_{1R} が遠端に到着	2016.09.15
p.87 2~3 行	この式は右行波を表しているから左行波によるクロストークの	この式は左行波を表しているから右行波によるクロストークの	2016.09.15
p.87 6 行	v_{1R} が近端で反射したときに右行波 $r_2 v_{1R}$ として	v_{1R} が遠端で反射したときに左行波 $r_2 v_{1R}$ として	2016.09.15
p.87 9 行	右行波による右行波へのクロストーク	左行波による左行波へのクロストーク	2016.09.15
p.98 式(4.70)	$-\frac{\partial}{\partial x} \begin{pmatrix} v_1 \\ v_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} L_1 + L_{13} & L_{12} \\ 2L_{12} & L_2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} i_1 \\ i_2 \end{pmatrix}$	$-\frac{\partial}{\partial x} \begin{pmatrix} v_1 \\ v_2 \end{pmatrix} = \frac{\partial}{\partial t} \begin{pmatrix} L_1 + L_{13} & L_{12} \\ 2L_{12} & L_2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} i_1 \\ i_2 \end{pmatrix}$	2016.09.15
p.98 式(4.71)	$-\frac{\partial}{\partial x} \begin{pmatrix} i_1 \\ i_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} C_1 + C_{13} & C_{12} \\ 2C_{12} & C_2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} v_1 \\ v_2 \end{pmatrix}$	$-\frac{\partial}{\partial x} \begin{pmatrix} i_1 \\ i_2 \end{pmatrix} = \frac{\partial}{\partial t} \begin{pmatrix} C_1 + C_{13} & C_{12} \\ 2C_{12} & C_2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} v_1 \\ v_2 \end{pmatrix}$	2016.09.15
p.126 9 行	式(5.24),式(5.25)の最初の	式(5.27),式(5.28)の最初の	2009.05.01
p.131 7 行 分かりやすく文章を変更	したがって、図 6.1 に示すように、線路の分布容量と負荷の分布容量とが加算されて等価的な分布容量となる。 この結果、バスに分布的に接続される素子の入出力容量の影響によって特性インピーダンスが低下する。	したがって、例えば、図 6.1 に示すように、線路の分布容量 100pF/m と負荷の分布容量 350pF/m とが加算されて等価的な分布容量 450pF/m となる。 この結果、同図に示すように、特性インピーダンスが低下する。	2016.09.15
p.141 5 行「例」削除	Rambus インタフェースを解析例した	Rambus インタフェースを解析した	2019.04.02
p.163 式(7.49) 指数の肩 $\omega \rightarrow n\omega$	$c_n = \frac{T_W}{T} \times \frac{\sin \frac{n\omega T_W}{2}}{\frac{n\omega T_W}{2}} \times \frac{\sin \frac{n\omega t_r}{2}}{\frac{n\omega t_r}{2}} e^{-j\omega \frac{T_W + t_r}{2}}$	$c_n = \frac{T_W}{T} \times \frac{\sin \frac{n\omega T_W}{2}}{\frac{n\omega T_W}{2}} \times \frac{\sin \frac{n\omega t_r}{2}}{\frac{n\omega t_r}{2}} e^{-jn\omega \frac{T_W + t_r}{2}}$	2016.09.15
p.178 式(8.28) 上の段 E_0 が不要	$v(l, t) = v(0, t) \times (1 + r_2) \times \exp\left(-\frac{R}{2Z_0} l\right) E_0$	$v(l, t) = v(0, t) \times (1 + r_2) \times \exp\left(-\frac{R}{2Z_0} l\right)$	2016.09.15
p.182~p.184	表皮抵抗とグラウンドとの関係に考え違いがあった。	図 8.8 削除、図 8.9~図 8.11 書き換え、その他修正加筆 本正誤表の巻末に添付	2016.09.15

場所	誤	正	改版日
p.194 8 行	式(9.1)の右辺括弧内第 1 項が抵抗損であり,	式(9.1)の右辺括弧内第 2 項が抵抗損であり,	2009.08.28
p.209 図 9.21 差し替え			2009.05.01
p.219 式(付 3.2) サフィックス抜け $A(s) \rightarrow A_1(s)$	$I = \frac{1}{Z_0} \left\{ A(s)e^{-\frac{x}{u}s} - A_2(s)e^{\frac{x}{u}s} \right\}$	$I = \frac{1}{Z_0} \left\{ A_1(s)e^{-\frac{x}{u}s} - A_2(s)e^{\frac{x}{u}s} \right\}$	2016.09.15
p.222 付録 4		全面書き換え 本正誤表の巻末に添付	2009.05.01
p.223 最初の行	式(4.16)～式(4.19)の左行波を	式(4.11)～式(4.14)の左行波を	2016.09.15
p.225 最初の行	近端の基本式は	結合線路の基本式は	2016.09.15
p.226 2 行	サフッスク “1” を	サフィックス “1” を	2020.02.16
p.232 式(付 8.3) 分母 引き算→足し算	$V_2 = \frac{1}{s^2(LC_m - L_m C)} \left\{ \frac{d^2 V_1}{dx^2} - s^2(LC + 2L_m C_m)V_1 \right\}$	$V_2 = \frac{1}{s^2(LC_m + L_m C)} \left\{ \frac{d^2 V_1}{dx^2} - s^2(LC + 2L_m C_m)V_1 \right\}$	2016.09.15

改版履歴

- 2009.05.01 初版
- 2009.08.28 02 版
- 2016.09.15 03 版
- 2019.04.02 04 版
- 2020.02.16 05 版